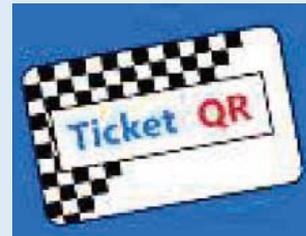


QRコード決済システムを活用し、市内公共交通のキャッシュレス化を推進！

- 上田市では、少子高齢化や人口減少が進展する中、持続可能な都市として更に発展していくために「第二次上田市総合計画 前期まちづくり計画」を策定。将来にわたり市民が快適に必要な移動ができるよう、公共交通の確保・維持を目標の一つに位置付けた。
- こうした中、官民金（上田市、(有)和晃、上田信用金庫）の連携をきっかけに「上田市公共交通キャッシュレス化推進プロジェクト」が発足した。
- 上田市は、「上田市スマートシティ化推進計画」の個別施策として、公共交通機関における運賃のキャッシュレス化を推進。(有)和晃が開発したQRコード決済システム「TicketQR」を活用することにより、初期投資費用を低く抑えることが可能となったことから、実証実験を開始するに至った。
- 「TicketQR」は公共交通のキャッシュレス化に止まらず、商業振興への横展開が可能。他の地域においても同様の取組が進められており、地域の課題解決・活性化への貢献が期待される。



TicketQRのロゴ（提供：(有)和晃）

上田市公共交通キャッシュレス化推進プロジェクト

上田市

- 公共交通事業者の生産性向上・事務効率化、顧客の利便性向上の課題を抱える。
- 「上田市スマートシティ化推進計画」を策定し、AI・IoTを活用した施策を推進。

(有)和晃

- 「TicketQR」の開発企業。
- 「TicketQR」以前にも別のQRコード決済システムを開発するなど、高い技術力を有する。
- 既存QRコード決済システムの交通機関への転用を構想するも、導入先のあてがない。

上田信用金庫

- (有)和晃の取引金融機関であり、技術力を高く評価。
- (有)和晃の技術力と既存のQRコード決済システムが、上田市のスマートシティ化に貢献できると考え、システムを上田市に紹介。

金融機関が
つなぎ役

官民金の
連携

- 上田市、(有)和晃、上田信用金庫のほか、上田電鉄(株)や上田バス(株)、上田商工会議所の6団体で発足。現在はその他の交通事業者等も加わり、14団体が参加。
- 内閣府地方創生推進事務局等が実施する「令和3年度 地方創生に資する金融機関等の特徴的な取組事例」として、地方創生担当大臣から表彰。

【地域金融機関の役割】

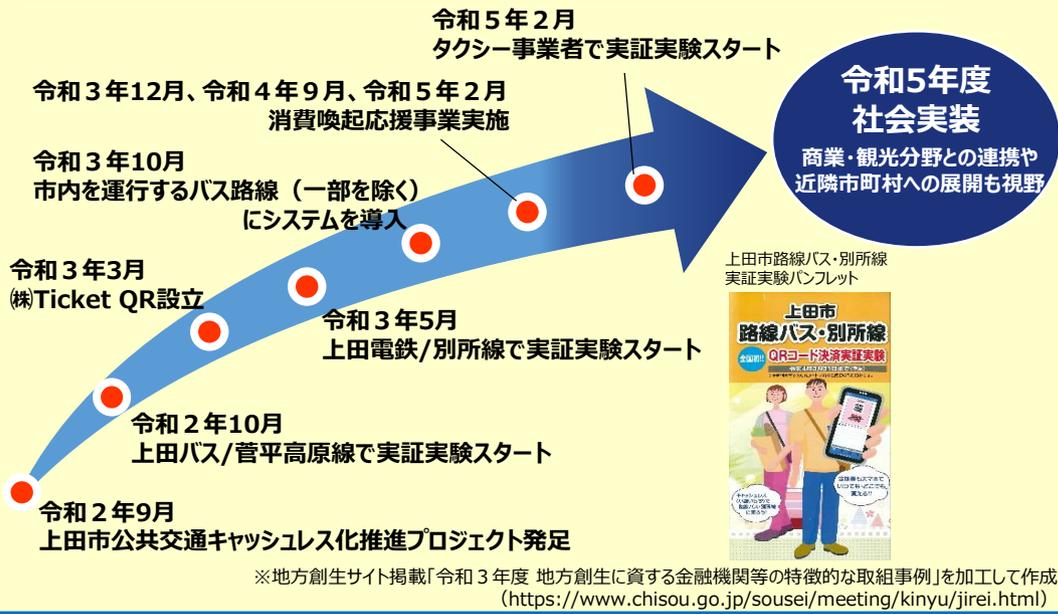
- 地域経済の活性化や健全な発展のためには、地域の関係者が連携・協力しながら中小企業等の経営努力を積極的に支援していくことが重要。
- 中でも人材やノウハウを有する地域金融機関には、地域の中小企業等に対する経営支援や地域経済の活性化に積極的に貢献していくことが強く期待されている。

※中小・地域金融機関向けの総合的な監督指針より抜粋

【上田信金の取組～上田市キャラバン隊～】

- 上田市、上田商工会議所と共に平成28年に発足（令和元年12月に連携協定締結）。
- 3者が連携し、中小企業への経営改善支援や補助金申請支援等を行い、生産性向上・経営力向上に向けた取組を実施。
- 上田市公共交通キャッシュレス化推進プロジェクトも上田市キャラバン隊の取組から派生したものの。

キャッシュレス化推進プロジェクト これまでの取組



「TicketQR」の特徴

- 専用アプリのQRコードをかざすだけで決済が可能。スマートフォンを持たない人でも、車内や窓口で紙製プリペイド券を購入することにより利用が可能。
- 変動制運賃（利用距離で変わる運賃）に対応。全国の自治体で初めて導入。
- GPS連携によりバス・電車の運行状況がリアルタイムで確認が可能。
- 対応している電子決済サービスの種類が豊富。
- 初期投資費用が低く抑えられる。交通事業者の導入が比較的容易。

対応している決済サービス

PayPay	メルペイ	LINE Pay	au Pay
Google Pay	Apple Pay	We Chat Pay(微信 交付)	d払い

クレジットカード (VISA、JCB、AMERICAN EXPRESS、Mastercard、Diners Club、DISCOVER)



「TicketQR」の利用方法

乗車時に整理券を取る必要がなく、乗降の際、QRコードを表示させたスマートフォンや紙製プリペイド券をリーダーにかざすだけで決済ができる。



- ### 利用可能な路線
- 上田電鉄 別所線**
- ・菅平高原線
 - ・真田(渋沢)線
 - ・傍陽線
 - ・豊殿線
 - ・久保林線
 - ・信州上田医療センター線
 - ・アリオ上田線
 - ・塩田線
 - ・西丸子線
 - ・信州上田レイライン線
 - ・上田市街地循環バス（赤バス/青バス）
 - ・上田草津線
- 千曲バス**
- ・祢津線
 - ・室賀線
 - ・青木線
 - ・鹿教湯線
 - ・武石線
 - ・松本上田直行バス
- 東信観光バス**
- ・中仙道線
 - ・丸子線
- ※上田草津線・松本上田直行バスは都度決済のみに対応
※丸子地域循環バス・オレンジバス、長久保線（JRバス関東）は対象外

- ### TicketQRにはこんな利用方法も
- 電車・バスの定期券購入
 - 温泉施設の入場券
 - 消費喚起応援事業
- ### Suica等のICカードやタッチ決済との連携の仕組みを模索中
- ※事前に専用アプリ内での連携、チャージ等が必要
- ※資料提供：上田市

キャッシュレス化で期待される効果

(1) 利用者（市民・観光客）の利便性向上

- ① 小銭の準備や両替が不要になり、スピーディーな決済が可能となる。
- ② スマートフォン上で定期券と回数券の購入が可能となり、プリペイド式の場合には購入額の10%分のプレミアムが付与されるメリットがある（タクシーを除く）。また、利用者に応じた、様々な種類の電子決済サービスに対応している。
- ③ バスロケーションシステムにより、バス・電車の運行状況をリアルタイムで確認が可能となり、待ち時間の短縮や時間の有効活用につながる。
- ④ 決済時の非接触化、乗降口での滞留防止が促進され、新型コロナウイルス感染症の感染対策にも貢献。

(2) 交通事業者の生産性向上・事務効率化

- ① 現金管理業務が削減されるため、社員の作業時間が短縮され、事務の効率化や働き方改革につながる。
- ② バス・電車の運行状況を常時把握することが可能であり、また、利用者の乗降履歴や時間帯別の利用データを収集・分析することにより、路線の再編や運行方法の見直しに活用することができる。

(3) 地域活性化

- ① 「TicketQR」から得られる情報を行政でも活用することで、観光や商業と連携した各種施策が実行可能。
- ② 地域住民の消費喚起や旅行客の回遊性・利便性を向上させることで、地元事業者の売上拡大、地域活性化につながる。

バス・電車の位置がリアルタイムにわかる



電車はどの駅に機器が設置されているのかも確認できます。

【サービス⇒乗り物マップ】

観光情報も見られる



【サービス⇒乗り物マップ⇒観光情報】

※資料提供：上田市

現状の課題

(1) 「TicketQR」の普及・利用拡大

交通機関の利用者にはスマートフォンに不慣れな高齢者も多いことから、紙製プリペイド券の発行を行っているが、現金払いの習慣が根強く残っている。また、紙製定期券からの転換も進んでいない。

上田市では、広報誌への掲載やチラシの配布、割引キャンペーン等の実施により、引き続き「TicketQR」の利用拡大に向けた周知を行うこととしている。

(2) 利用者の更なる利便性の向上

現在、交通事業者ごとに異なるQRコードを使用しており、利便性に欠ける点がある。

交通系ICカードやタッチ決済との連携を視野に入れ、更なる利用者の利便性向上を図ることが必要。

(3) 維持管理経費の負担

新たな負担として決済機器の通信料及び決済手数料が発生。

今後の展望

(1) 長野県内他地域への展開

松本市では令和4年4月以降「松本周遊バス タウンズニーカー」等で、佐久市では同年10月以降「デマンド交通さくっと（令和5年4月より「デマンドワゴン さくっと」に名称変更）」等で、「TicketQR」の実証実験が開始されている。上田市におけるプロジェクトと同様の取組が、他の地域においても広く展開されることが期待される。

(2) 地域の課題解決・活性化への貢献

公共交通におけるキャッシュレス化は、利用者の利便性向上や交通事業者の生産性向上に寄与し、公共交通が抱える課題の解決に貢献することが期待される。また、「上田市スマートシティ化推進計画」では公共交通分野のみならず、「個々の分野の課題解決を図りながら、分野を横断して連携していくことにより、全体としての効果を高めていくことが重要」としていることから、今後は、公共交通だけでなく、蓄積されるデータを分析・活用し、観光や商業等の他の分野における課題解決や地域活性化に貢献することが期待される。